



## 研究部会報告

### ● OR/MS とシステムマネジメント ●

#### ・第1回

日 時：9月10日(土) 13:30~16:30

出席者：30名

場 所：東京工業大学百年記念館・第1会議室

テーマと講師：

#### (1)「ユビキタス・サービス産業化の構想」

玉田 樹 (榊野村総合研究所・理事)

概要：ユビキタス・ネットワーク社会における産業化の方向性について、その鍵となる産業モデルの紹介とともに報告がなされた。ユビキタス・ネットワーク技術の進歩により、ユーザーの現実生活がより一層支援されることが期待されるが、その実現に向けては各関係企業を適切に統知（インテグレート）するサービス統知企業の存在が不可欠であるとの興味深い主張があった。そして、このような新しい産業構造がもたらす影響について、出席者の間で盛んに議論が行われた。

### ● 待ち行列 ●

#### ・第187回

日 時：10月15日(土) 14:00~16:30

出席者：23名

場 所：東京工業大学西8号館(W)809号室

テーマと講師：

#### (1)「ユビキタス社会の実現に向けた次世代ネットワークの技術課題」

宮保憲治 (東京電機大学)

概要：QoS保証を考慮したMPLS用トラフィックエンジニアリング設計においてOR的な手法を用いる例が示された。また、アドホックネットワーク用プロトコルの現状が平易に解説され、技術課題が示された。最後に、超伝導素子を応用した高速ルータのアーキテクチャが紹介された。特に高速ルータの設計や制御方式について活発な質疑応答がなされた。

#### (2)「Limit Laws for Terminal Nodes in Random Circuits with Restricted Fan-Out: A Family of Graphs Generalizing Binary Search Trees」

\* 築地立家 (東京電機大学), Hosam Mahmoud (The George Washington University)

概要：2分岐探索木を一般化したグラフ族  $C(n, i, s, a)$  のうち、2入力の  $C(n, 2, s, a)$  に関する解析が行われた。特に、端末素子の個数が正規分布に従うことを、マルチンゲールを用いて証明した。このモデルの一般化や応用例等について質疑応答が行われた。

## 査読者へのお礼

今年度のOR誌の論文・研究レポート、論文・事例研究の査読を次の方々をお願いいたしました。

ご協力いただきましてありがとうございます。この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

(機関誌編集委員会)

朝野熙彦, 朝日弓未, 石垣智徳, 乾 孝治, 岩井千明, 上田 徹, 大澤義明, 岡野裕之, 加藤直樹, 金

子敬一, 熊倉広志, 佐藤栄作, 里村卓也, 猿渡康文, 杉山 学, 鈴木敦夫, 高橋彰子, 高橋勝彦, 田口東, 田畑智章, 寺野隆雄, 中川慶一郎, 中村 博, 中山雄司, 生田目崇, 野末尚次, 羽室行信, 枇々木規雄, 平山克己, 降旗徹馬, 星野直人, 三浦英俊, 守口 剛, 森田 浩, 森田裕之, 吉羽要直(敬称略)